延齡松詩歌前集　全

洋学文庫
文庫8
B 129
1

天保庚子新鐫

延齡松詩歌前集　全

周南　不昧居藏

F 39- 8024

不昧居齋後植松記

寛政十年戊午冬十二月。周防吉敷郡人上田火藏。託余寄書以請予曰。僕家世業造釀。居臺道村。々在小郡宮市二驛之間。是以自昔九國諸侯述職往来。率皆取休憩於弊居焉。太歳丁巳春二月。薩藩公子虎壽丸君東上。去弊居數里有長澤湖。君命近侍。取稚松數本其湖畔。齎来復命樹之於弊宅扁曰不昧居之後庭。曰比吾西還。當見此長茂也而行。今其松過半皆淂挺生繁茂矣。僕願借先生之筆以掲之弊室。以表顯

公子前言之有可驗。且以傳戒其樹之當[illegible]封[illegible]於
子孫。俾勿敢怠也。余既應其請。為紀其事。因謂以為
凡樹木之因賢人君子。而顯于世者。如孔子廟堂之
檜。子貢孔林之楷。其類甚多矣。若夫因貴介而顯者
亦其亞也

虎壽九君西海孟候之貴公子也。而其命植之樹。既
得其挺生繁茂於其庭。則其家子孫。率以渇託其洪
蔭者。可預知焉矣。以是推之。上田氏福。其豈可限量
哉。其豈可限量哉。

寛政己未春三月

平安　皆川愿撰

松雪

うもれよきそのへぬ
須の白妙は雪なし
こいくえ乃浦の一方
津波られ

羅月忠良

松既爲
名矦所手栽。而此歌又爲
閤公偶然詠松以賜者。兩貴固足
以相配。兩貴併在人間。又爲希世
大榮。故此歌雖原不相與。併刻之
於集中云。

徳大寺大納言實堅卿

伊く千世のいろをみどりの針ごとく
ちきりけらしな松のとものえ　實堅

西洞院少納言信順朝臣

いく千世もよはひを友と庭能面中
一木の松を植てこそ見れ　信順

岩倉少將具集朝臣

津の国の雪と玉松の枝に風もとみせす
幾十かへりの花をかそへむ　具集

西大路從三位隆明卿

さの庭松く深と毎年て幾千世の
花と見て深乃松の濃葉　隆明

備後　菅晋帥

君家長松樹。藩侯曾手栽。々時公未長。々略與松齋。公已襲封爵。堂々冠冕姿。松亦擢條幹。嘉蔭覆庭墀。主翁欣喜甚。千里索詩之。吾詩將何述。聊且作祝辭。公身松比齡。君家松競榮。

安藝　賴杏坪

世子曾蒔三尺松。幽人堂下欲成龍。豈圖倩得貴人手。卧聽濤聲眠午窗。

出雲　北島孝相

十かへり乃華もまちみむこのやとにふかみひく松のちとせを

こゝよりもさかゆる宿に移しうゑし雲井にちよをやあひおもふらん

出雲　千家長[illegible]

うつし植し胡の中なる松ならはともにやちよもへぬ契を

仝　孝與

封植曾憑貴戚隆。繁陰知藉寵光融。惟應壽色長迎送。不擬禎祥十八公。

信濃　源俊豈

薩藩公子愛。移植両三松。頻襲丁生夢。預思秦帝封。風幹看帶氣。烱蓋壮凌冬。這東仙場色。猶優鼇背峯。

防府　源直

めくみある君か千世の春しるやうゑつゝんとしまさりゆく宿の松か枝

薩广　永吉實有

うつし植し二葉の松も行すゑのちよを契る宿そ久しき

仝　和田正休

うつしうゑし今より千代のこみとりえて栄ゆく宿の松のひとしほ

仝　宮本盛香

中津　倉成龍渚

不眛齋居月掛松。印庭華蓋影重々。緇流儒雅詩傳響。聽取清吟吝老龍。

河内　張山雍

周南停駕手栽松。長澤春雲欝翠重。麟趾尚餘公子
頌。龍鱗不羨太夫封。

清末　渡边澄

此地曾栽十八公。四時封殖益青葱。秖生愧以薫蕕
色。坐對堂前玉樹風。

備前　武元登庵

聞説公孫手植松。年々繁茂後庭中。一家和樂調琴
瑟。永聽瀟々灑々風。

京師　浦上選

薩公有意曾栽松。不昧居中新爵封。又憶従今千載
後。何時更化作虬龍。

薩摩　石家雀高

不伴垂楊與嫩桃。影揺夭矯獨將翶。雪紛時宿千年
鶴。風靜還生萬頃濤。未許幽人釀和酒。豈分僊客鍊
爲膏。君家每見春光到。子兼孫枝次第高。

江戸　泉本明善

風濤萬頃調鳴琴。偃蓋重々鶴在陰。閑支不論丁固
夢。高人長比歳寒心。

仝　渡边壤

薩國佳公子。風標最絶倫。禅松移旌舘。早想老龍鱗。

會津 土屋朗

幾年移種欝成林。夕奏笙簧朝和琴。痩葉長含千載色。孤根不改四時心。満庭稷々風難定。小院蒼々月易沈。冥捜憶君臺道上。閑随白鶴聽清陰。

薩ノ 谷田純清

千代みていやさかゆへき宿なれやうつしうゑつる松をためしに

仝 梅北兼仲

植しよりはや葉のいろそえんいくちよもしけりそへむ中川のきしの風

仝 島津久宅

みとりそふかけをときはに栄つし久美さく松のさかえもまちみるかな

仝 定宿行顕

こゝろやとのちよのまかしとさかふしにみとりの松の氣そふかき

仝 二宮政峯

うつしうゑし松のちよをもせめいくる契りさかゆく宿のたのしみもなん

仝 驢齋

こゝろやときみかうゑんも千代のまてとも松はみやうつしうゑそん

秋月 黒田巻阿

閑庭松樹淨無塵。翠葉参差世絶倫。偃蓋雨晴留窪影。蟠根雲擁見龍鱗。瑶琴寫入濤聲起。金掌映来日色新。南薩子候手培植。凌霜經雪幾迎春。

長松落々聳幽庭。偃蓋重々誰爲青。欹枕閑人眠不得。琴聲月午落風欞。

仝　黒田藏[illegible]

道是長臯偉植。歳寒氣象堪憐。明窓曙雪千朶偃蓋薫風五絃。怪底龍鱗點綴。看他鶴影蹁躚。薩南公子鍾愛。融液流膏萬年。

仝　渡邊啓

亙磈有節目。獨立千尋松。氣象凌霜雪。秦皇不得封。

仝　吉田興讓

みどりには千とせの末の清きをも花もまちみてあるらむ松のえ

紀伊　本居大平

薩陽貴公子。手植寸青松。枝葉年々長。應須秦帝封

天草　釋天中

欝葱佳樹水雲區。何減秦時五太夫。昨夜雨齋新入夢。枕邊清籟聽笙竽。

江戸　古賀劉煜

ちよまでもまつしるしとや松のみどりの一葉しげみ代をちぎりて

肥後　帆足長烋

すゑとほく来なれて松に友つるちとせものどけき庭の松のえ

仝　帆足京

京　村上彦俊

松樹薩藩種。移園日茂榮。月邊看蓋影。風裏聽琴聲。棲鶴巢堪結。老龍鱗稍生。儻逢秦帝雨。應署大夫名。

萩　片山潤

薩南公子駕徂東。逆旅移松託主翁。應與甘棠同敬愛。豈無王樹比青葱。龍鱗欲躍暁雲外。黛色斜懸疎雨中。更有清風吹不斷。長令淑女寫絲桐。

備中　近道春彦

ゆくすゑのちとせもしるし宿の松みとりそふらん恵みあらたに

和泉　矢野守光

いやましにたえぬめくみの松のみとりもふかき宿のうちかな

甲斐　榮名井聰翁

すゑしけるちとせの松や千代ふへきためしなりけり

萩　平田時習

薩藩公子曾相過。移植孤松逆旅中。龍影欲揺長澤水。鶴聲遥度大槃風。爾来朝暮常培殖。追日枝柯倍鬱葱。珍重主人千載托。清陰堪慰五花驄。

仝　山根温

刺史清源裔。三州攝尚雄。謀猷威海表。轂晃覲山東。税駕長皐舍。托松不昧翁。韶風厚封植。恩露裛青葱。

雖闕大夫爵。數期千乗公。歌應緑竹似。愛與甘棠同。
終是棟梁用。猶存社稷忠。清音生雨外。勁節凛霜中。
有主能昭德。無臣不發功。善哉嘉君子。以汝治聲隆

仝　仲煥

主人閑雅有清標。公子栽松表後凋。楚々寧唯承雨
露。亭々忽欲接雲霄。氣連長澤蒼龍躍。風拂高軒瑤
瑟調。莫道如今無賜爵。素封真耐太夫驕。

仝　山縣慎

公子栽松長澤潯。常銜恩露冪陰深。清標長帯凌霜
色。託得主人不昧心。

薩摩　島津樂山

うつしうゑし松をたぐへてときはやまときはなるしも千代の蔭にへぬべし

信濃　怡川

すみ川のそのまゝ千代とあふげそかしこしやうゑし君ぞ人やその恵しる人

仝　埶川勝房

ふた葉より植うつし松もとこよのみどりまさる千世のためしとぞなりなん

萩　井上直行

千代ふるさかえやさかえまさるうつし恵めぐみをあふぐ松の千とせ

仝　李家正栄

こゝろやすく千代栄えよとうゑし松をさし根さしもさかゆき松のとものく

仝　桂綏定
けふの見よと植しめつるを添ひつゝ志けみ志けし宿の松かえ

阿波　七條安尚
色ことに栄ゆることの庭もせまくつゝ千代のみ友まつ

萩　児玉賢次
いく千代も経ぬるさかえとしらるゝ松ハめくみのふかき色そふ

仝　児玉宣娅
うへしより君のめくみに添ひつゝ千代もさかえん宿の松かえ

仝　桂将女
うゑ置し松よろつの色見えて栄ゆる千代の宿そ久しき

仝　桂米女
行末もいやさかえよと常盤やしらん松のよろつよのかけ

仝　桂正寿尼
うゑおきし庭の小松もいくとせをへつゝ栄ゆる千代みやと

仝　佐藤敬忠
植おきし其の緑の色ふかきこゝろの宿に栄もさかゆらし

仝　近藤俊幸
恵ある人さへ添ひし玉垂し松のさかえのいく千代をへん

周防　釈七羊
ちとせ迄宿にいふ名もむかへやこの松かえに君の明る月

萩　井上敬

森々巌壑氣。欝々棟梁材。雨露深恩在。風霜勁節開。
騰龍離海嶠。巣雀孕仙胎。簷外奔濤合。四窓翠黛堆。
泰封光萬古。丁夢徴三台。欲賦青葱色。愧非楊子才。

龍野　俣野資原

聞説薩侯曾妙齢。稚松手栽向前庭。帆龍盤得鱗初
現。琴瑟揮来調可聽。棄思薄陰堪礙日。勢知直幹欲
摩星。爲君邀要題詩去。枕上無端入夢青。

江戸　高倉載

世子栽窠書幘前。凌雲影秀一年々。幹枝屈曲龍蛇
勢。長向墨池吐翠烟。

薩广　ちさ人あつん

としことにみとりのいろそふこのやとの松のさかえハいくよあらまし

仝　こさん女

よろつよのめくみふかくれぬみやとの枝葉をのへゆく松のすゑさき

仝　川上親明

植まセる真心をしるハ葉をあつく人每もかくれなやとのすゑかな

仝　冨山通顕

わか君のこ君にひかれて世をひろしてらすのやしき庭の松かな

うしそしや君か往来のいくちよかけまされと植しやしきの松かえ

よ母ふその名をふきつゝ人ふきつゝ人まちえきぬやとの庭の松かえ

廣島 下見道衡

信濃 山邨良由

君侯手種玉爲欄。灑掃朝昏躑躅看。護若甘棠無翦伐。愛同修竹報平安。含風葢惹蘭臺快。帶雪條須兔苑寒。烏借西天南徒翼。共斟仙禺一留歡

仝 山邨良喬

緬想周南十八公。披襟任引楚臺風。王孫手植趨庭暇。翰墨誰誇寓目中。岱岳翠籠長雨晴。栢梁材擢半天雄。重知五馬停鑣日。雲裡琴音髮鬅通。

仝 山邨良煕

青松如玉絶纖塵。秀葉鬖鬖翠日新。勁幹最憐霜雪後。出羣長比歳寒身。

清末 波多しけ女

うけつきし根さしを君かうゑそへて栄えもしるきやとの松かえ

大坂 井上喜厚

よろつ代の清きためしのくまなき松はちとせ八はそのふるかな

江戸 良貞尼

うつしうゑて君か恵のいやましく栄え久しき宿のまつかえ

伊勢 林氏栄

いく千とせさかゆく宿の玉松ハ世のつねならぬみとりそふらん

仝　荒木田武恭

ふた葉より君かうゑてしひめこ松雲のうへまてさかゆくらしも

周防　村上基徳

くもりぬ新たなるさきちとせの末のゆく千代の宿の言の葉

薩摩　橋口古愚

千代まてと君かゆきゝと松かえのさかゆく宿ハいくとしまても

としことにみとりの葉も咲そひて光をそふる庭の玉雲

江戸　金沢千秋

うつしうゑて世々を千歳の松かえにかねてみよせのやとをしめらん

防府　矢野括山

世子曾聞停駕日。移来松樹鬱蒼々。後凋獨表貞幹色。要向千秋凌雪霜。

筑前　幻斎宗曄

薩藩公子有風神。逆旋移松長澤濱。但使主人心不昧。及看君作老龍鱗。

長府　柳辰

公子風流此繋駒。小松移植一庭隅。凌雲千載君封殖。雨露従来恵不孤。

出雲　佐草茂清

祝ひの声きゝに千とせの末かけていはふえむやとちよをまつ

山口 松田貞通

うゑおきし二葉の松の深みとり君か千とせのためしなるらし

仝 安倍宗信

いろしらぬ庭の松かえなかきより君か千とせのかすもしられむ

防府 能美ゝ免女

ゆく末はちとせそしるきこゝろやとれる君かはるゝとも月のひかりをかくらむ

萩 繁澤得克

よろつ代やちよの万代かけて深みとりおいせぬいろに千とせをはふく

仝 源憲章

このえはかくもつきしや宿の松さかえをとこゝろ庭のしるしの陰

仝 二階貞範

かきりなき世々の友とてさかえしに松はちとせの後もさかえん

薩ナ 有馬純明

いく千代もふるしらおのみとりそ松やいくちよまてもさかゆらん

仝 椿松貞休

うゑしよりみとりの松をまちえしそ千代のかすやたもさかえん

仝 島津久達

うゑしより半世に松の陰とよさかゆくやよのちよまてさかえてあらけむ

徳山 役観

巖渕邨口植雛松。世子垂髫手自封。楚々誰知當日種。凌雲今作半天龍。

豐前中津 山虚

薩藩幼世子。東上此從容。手自移根種。年来有蓋重。知應存顧念。好是厚培封。多少留歌詠。何唯菅廟松。

熊本 李順

盤根幾年已成龍。地是周南臺道松。聞説名藩公子種。太夫何必待秦封。

長 村田清風

公子栽松既數尋。常將恩露翠烟深。夜搖大澤蒼龍氣。春引桐林丹鳳音。天籟騷人聞聽石。袂絃淑女寫彈琴。期君獨駐千秋色。長照仙翁不昧心。

京師 中神富德

栽成平楚鬱葱々。共帶春暉多少同。色借青雲擬帝路。勢留華露学仙宮。紫鱗沆瀣朝佳氣。踈韻笙簧對大風。緬想清庭迎鶴輿。枝々葉々海西雄。

筑前 亀井魯

風流刺史薩侯臺。移得霊根手自栽。不願秦皇封爵貴。將成漢室棟梁材。夜吟江雨龍鱗黒。暁宿山雲鶴唳来。借問周南詞賦客。只今誰擬子雲才。

清末　呉林孟明

公子栽松已幾春。聽今方作老龍鱗。東遊若歷山陽道。樹下清風訪主人。

清末　廣江良德

不昧居庭一樹松。坐看偃蓋幾重ゝ。應知公子深恩澤。封植唯今欲作龍。

讃ア　萩原貞孫

しけりしちよの松に行末みちち契をちきる宿そ久しき

仝　大野久端

栄え行やよの中免しと移りゆくまつやちとせの陰をそへなん

周防　鷲頭正識

こゝに宿りたちて葉をしけきさかゆく松のかきりしられん

備中　小寺清先

千世のまてをさかゆくみちをおもひつゝねにかうしてき松の根さしは

萩　兒玉宣次

うつしうゑし君かめくみの深ゝはいく世さかえん宿の松かえ

仝　内藤昌盈

移得蒼松周水涯。長知雨露遍君家。拂塵清韻心何昧。滿甕流膏壽自遐。操傲三冬生瑞氣。蔭停五馬醉仙霞。恩波將及一堂上。兒女相歡筆有花。

京師　小石龍

曾辱熊車顧。芳根手自栘。深含霜雪操。發抱棟梁姿。勢聳如龍挐。陰加有鶴知。青雲期不遠。濩濩莫違時。

久留米　樺島公礼

欲題松樹無佳句。酔後夢中行且眠。如記貴人嘗手種。益知不昧主人賢。

薩ア　槙女

ひきうゑをときはみやまとひとちきるらんあふくもたのしよろつよの松

秋月　原古處

雄藩世子植靈根。甘蔭稍濃雨露繁。閲盡歲寒古十八。公今已踞孟候尊。

東都　釋水月一

大國嗣君盤石宗。曾種周南一株松。枝含竿籟和聲靜。幹貫氷霜秀色濃。使者何時牽與犬。主人應見化蒼龍。遥思不昧庭中勝。嘯雨吟風翠幾重

長崎　梢林建

公子當年過此亭。手栽松樹秀家庭。繁陰更帶千秋色。長入主翁笑眼青。

薩摩　村橋峻

うつしうゑし松のみどりも君か世もともに幾千代とあふくなりけ

よろつ代とまつてふ種ハよき人のむかしよりてまうせたきあん

徳山 飯田正誧

赤間関 甲柳庵

憲邊松樹高千尺。言是薩侯曾手移。借問高情何所適。清陰獨坐鼓琴時。

長府 中川好古

非君滿腹雅情濃。薩侯如何手植松。三國琉球有餘地。名園別假太夫封。

同 中川好一

曾繫大邦公子車。手栽松樹綠陰遮。年々歲々春風面。映出兒孫筆底花。

萩 中村任

南州公子此從容。手植前庭一樹松。歲月陰濃堪駐鶴。風霜幹古欲成龍。恩榮殊可助高壽。貞節偏能親素封。重遇東行車馬過。杏脂和獻紫霞鍾。

江戸 杉浦統

薩侯手自種。不昧庭前松。知是就封日。果看時化龍。

中津 釋雲華

薩侯曾所植。松樹已森々。二卷芭蕉布。應憐保護心。

萩 馬屋原詮徽

名公千載賜。富壽協天真。樹增青葱色。詩添錦繡新。
有時聞鶴唳。侵日見龍鱗。若與秦封事。何遺不昧人。

京師 久田誠

穉松方偃地。封植護榮芬。當日不盈尺。已能氣逼雲。

同 釋大綱

南鎭邦君手自栽。蒼々偃蓋長亭臺。風音千里傳京
洛。引得新題勞秀才。

尾張 一家夫木

松乃関こゝろや十月亥と日の日

京師 瀨尾文

穉松盈尺入新圖。封爵何須五大夫。爲是風流公子
植。海西開得一名區。

伊勢 野村世業

不是尋常物。手栽公子賜。貞𪙊比玉帛。尤好邱園賁。

荻 北條氏補

世子曾栽十八公。高枝貞幹欝青葱。歳寒不啻傲霜
色。雨露濺餘封爵中。

參河 釋萬空

桃李誇花艷。椅桐貴材美。雖然能如斯。霜枯復雨委。
蒼松耐嚴冬。楚々最可喜。直欲凌雲霄。終非凡木比。

含風恠龍吟帶雪疑鶴止其誰曾植之謂美彼公子
〻〻昔植時貞幹僅可箠而今雨堪避知應其福履
松以植人貴人可採延齒奚翅甘棠詩千古相準擬
寄語問主翁茯苓分我否

記　　京師　頼襄

余西遊往還皆過防〻之臺道村有上田翁〻家一松樹薩矦所手植葢家當官道爲西海侯伯所芨憇薩今公之爲世子童齡東上始停駕焉手抽道邊稺松戯栽之庭際附翁善視之翁愛護長育逐年漸包矦已當國東西祇役或過而問焉今侯已壯強而松亦成鱗今之偃盖重〻過檐者是也矦嘉賜蕉布翁心榮之嘗請皆川老人記之今亦索余文余曰異哉翁之所爲也余此行亦遊薩矣其國専西南一隅跨三州擁属城一百二而琉球貢賦不與焉其士庶繁富卉木蕃育多佗州所不及者余自泉闢入沿山緣海左右皆松行翠雲瀚鬱中二百餘里以達國都其富於松亦如此而猶何必愛翁家之一株哉翁之所爲猶持勺水增溟渤以誇其勞不亦異乎余將何記之嗚呼余得之矣當翁停矦駕翁主人也掌大之庭亦爲已有矦羈旅之人也三州百二城不能携其一

撮土。雖棨戟如林。騶從如雲。吾見其惘々可憐。於是以其掌大之庭。借之於三州百二城主而有德色。爲育其所樹。又從而歌詠之。余因是知。天地之間。物各有主。雖王侯有時不得不借貸於匹夫。侯之賜於翁。非賜也償也。侯忘其貴。而翁忘其賤。一松樹而二美鍾焉。是可記也。且翁全家風流。其女其孫。皆嫺翰墨。聱婿嗣業。終身不知有離別之事。日相共團欒於松陰婆娑之下。是亦足以使薩侯視而羨之也。是最可記也。遂記。

十數年前。爲不昧居主人。題其庭松。頃聞薩侯賜嘉名曰延齡。主人重徵詩。因寄題賀之云。

萩　山縣禎

我昔觀松不昧亭。薩侯時植寸苗青。題詩預祝龍成勢。締契爲期鶴比齡。幾閱嚴霜肴既秀。常藏淸籟最宜聽。重來五馬賜銘日。垂蓋似迎車騎停

尾張　市岡猛彦

植しより千代にちきれる池水のみとりもあせぬ千年の松

三五　山田時文

大藩五馬幾回停。嘗植小松千尺青。可識寵光長得

佩。榮名新賜祝延齡。

萩 小田村迪

世子東行日。手栽臺道松。色含貞士節。寵比大夫封。夜雨竜鱗動。朝風鶴唳従。延齡枝葉茂。坐覺五雲重。

筑前 伊藤常足

長浜のきしにうへけん松ちよりて見てもよはひのためしやしてまし

近江 閑齋

おほくきんれんりしきてまつ白よ

清末 渡邉澄

こそつりしきつるみちよはひの名をも世人へにのこるの松

薩侯曾植一竜鱗。影映華堂瑞氣新。列國名流題詠遍。主人景福祝千春。幾巻圖書攤案頭。家人愬是樂風流。由來產業元非懈。餘力常為翰墨遊。

萩 楊井盛之

たふとさをみつるよはひの長浜や松のことは千世もかはらし

同 羽仁宗章

延るてふよはひをうつの露みてもあやしのさかえそうてしかな

清末 渡邉とゑ女

経人もよはひのふてふ松の名に祝ひてそ君は千代もへぬへき

同 長井のふ女

長田 菅義卿

松にすむつるもあえて千よ毋へとけふぞ延る松のゆすゑ毋

紀伊 加納諸平

うゑおける男にちきられて千代をあつしもへさん庭の松かえ

江戸 湖十

仙家の清水社瀬てやまつの霜

阿波 岩雲花香

梓弓ひく手代まても子のやとはあめのうつ社本をうゑてはうえん

肥後 東廣淵

笑枕よひのあくる法と。隼人のさつまの雄男社。あまの尽池の

なれさゆ。松うちもて植ゑましし。庭の名を継常葉代雲の。千代もかさねうる如。千枝のしけきか如。沖つあみ弥まさしくて。新玉のとしの日本男子。業をなせるとひくれいは。わまさ人もやちよとせをへてさくらまれ。

反哥

よろはよ残るつまちれてせ君まつ忌ましし昊そふ花

西市 中野長嘯

田氏樓前松樹榮。薩侯新命延齡名。雅翫種植成今古。老手培栽見至誠。偃蓋重〻封雪淨。條陰容〻帶霞明。方來雅頌均傳響。不借風聲天下鳴。

江戸　鈴木椿亭

不昧居中松一株。鱗條凢葉逼雲衢。借問並栖雙白鶴。近來育得幾多雛。

京師　一雲齋

張蓋去來留鷫鸘。凌雲歳月戴恩長。流膏助得家醞美。千斛延齡琥珀光。

同　加茂季鷹

わきまゆ千代をむかふるやう立ましとゝと畑の松とうまれハ

江戸　西田忠礼

まゝけきハ立しきよゝ孫萬代みよしかはらえん松乃ことの葉

京師　大江廣海

松ゝ枝ハあまゝのえかれしはなふくろ中にたるゝとや御由とゝ屆し

大阪　太田敦茂

やちゝ移もかはれし之をころもゝすうけさうえりの庭の松かえ

岩国　末永あきのり

長閑乃あまり記せめゝは松あれハ千とせのやろまゝ開をゝえる

廣島　山口鳴鶴

當年公子駐朱輪。庭際孤松手所親。松亦似憐詞客宿。更添細雨起文鱗。

萩　瀧華仙

歳寒殊衆木。春暖長千枝。祥夢丁公歳。榮封秦帝時。
蟠龍常起雨。巣鶴幾將兒。厭世漫歌此。養神或撫之。
幽宜三徑物。賞憶九如篇。談老換揮塵。學仙樂食脂。
七松居士意。五柳先生遺。戴雪兼梅淨。當秋與月奇。
著花猶自少。度棟又誰疑。仰見凌霄勢。俯知化石姿。
窸陰搖渭水。清籟落琴絲。延齡因貞幹。蒼天豈有私。

須佐　舩石

昔歳題松二十餘。尒來沈冥與世疎。忽然馬齡過知命。搔餘短髮不堪梳。青山杖藜無遠近。西遊始過田翁盧。田翁睬我天下頌。逡巡顏容意躑躅。忽看卷中虬蚓樣。松風不洗惡詩書。慙汗盖面如坐針。起傍後軒步庭除。松經歳月已成材。翠蓋掩覆不賖居。復坐爲壽且自壽。不向龍鱗歎居諸。但願翁年与松高。健步健餅衎ゝ如。

尾張　小野武一

とう契りの花さくはちも色そひていくとせふる松はひとかた

伊勢　蟠房

名つけんこゝろはなかなかのそれてよはひさかゆくしける松かえ

尾張　敦子

さかゆとほさの節をや天に契るらん千代は色そふ君か松かえ

近江 中江千別

ときはなるかげにかくれて松がえに葉いろとかに千代もへぬへし

中津 渡邉重名

百にちに草はあまたあれど。千萬に木は生れども。葉かへせぬ松ちふ木と稀。言さへぐ唐もやまとも。千年ふるためし少きをぬ。隼人のさつまの国に。宰料に大隅国に琉球さへてしらせる。君が花の鹿児島に藩を。大殿とさかえまして。三つの国治めまする。云巻も習ひき公か。松一本移こしかひくどりうへ給へ東のさえかれ。大江戸よまのあたりふと。草まくらなやかしませる。折ふしる周防のほとりに移刈

上田にうつら宿すしもうけひすひて。うゑたまひよよはひ延ちふ名。かうしき名さへたまひく。年にそへ移りたまひぬ。かつ偲愛たまふ松は。此いそねまはあれとも。そよしのゝあまたかれるぞしおやし実のみをとりこくまは持てあれは。めく千春いく萬樹からむか。南の山に。人ちよのけき君くはこゆきいる枝さし。あさきさひたて。その陰よ宿に驍の如くううしつ古しへ偲ひこうしめぬひ言しめひしまめ。かし汁しき此代を楽しき。おそれのをちこちの人に風雅士をとふひとはまつ。題主のよりひにふちふる松のとなれはのうけよ。松のをはちをうせぬを。亜来つしもく久し。子孫に八十

つくれすて。伯ふた卿のさかえをうつて千世かさねへきん。

反歌

うつもこのよはひ延るふ君しおつ松かちよせいらさほしき

三河　釋辨信

有樹棲仙鶴。有翁醉玉漿。此翁兼此樹。相對壽无疆。

備中　釋風牀

一株松樹緑陰清。庭畔時聞謖々聲。言是薩藩公子植。煙枝雨葉帶光榮。

秋月　釆蘋

庭松偃蹇臥龍驚。直拂雲炯入太清。況復延齡新賜

銘。知君萬壽与之京

伊勢　小津久足

長濱社池のつゝみの松すれはさしもよはひものひさしかるへき

同　本居春庭

名にしおへはちさるまほしくこのまつや齢を延ん千代か八千代か

尾張　鈴木朗

とほそちるよよひさいさ長沢乃池ところやし棲し松かえ

伊豆　大橋勲雄

果うつへの松のはるかに吹風のおとにきくさへうれしかりけり

尾張　加藤有清

千代にへむ葉ふさへ枝さへ老波乃むかしわすれぬ松乃ことを

會津　勝晋

薩州公子手親移。本自長皐千頃陂。鐵幹青葱含雨秀。蟠根屈曲帶苔滋。貞心不競花開日。勁節全淩雪滿時。如得雲烟化龍去。定知天下蔑靈奇。

江戸　伴信友

十かへりの花さくまてにいはひおひそめのちきりあひおひの松

伊豆　竹村茂雄

ところにもよはひのふてふ松なれは名さへかけてことほくなるらん

信濃　松岡内平

うゑてより幾千とせをか枝ひしくさへさかえん庭の松かえ

尾張　寺西恒保

神かけてうゑし小松の二葉よりかけのすゑいろやみえそめなん

紀伊　和田正主

めつらしき松とはいはしさかえてもかはらぬ松乃ことをなりけり

同　志摩顕滿

はるをまちちとせをかけてうつしうゑしひとのよはひも老ぬのまつ

尾張　植松茂岳

としふとそまつのちとせはいはゐぬへられ植らん君もやちよのいのちなる

同　吉田保業

ちきりのさかゆる中に袖かけし君かひきけん松はちとせそみえけり

薩ナ　村橋峻

非是呂公棠。薩公手植松。薩公乃我君。自西歲朝東。有海不敢舟。迂路周舊邦。周有臺道邨。懇与召公同。偶爾所移樹。逐年轉欝葱。逆旅主人某。拜賜若天降。呼之以延齡。祝松且祝公。棲鶴當指日。鱗鬣果學龍。

大阪　篠崎弼

周南何有松一株。聞薩摩矦昔種雛。幹矯盖偃如舞鶴。來往送迎迖職途。矦顧欣然雙眼青。特賜嘉名曰延齡。扁額高揭主人字。徃期其下産茯苓。愛松之心

養松手。推以及人何難有。君不見建久以來七百年。三州民齡遠相延。

京師　河本公輔

ときはなるうゑにし松のみとりにて千とせまてかはらぬいろそみえける

伊勢　殿村常久

千代ふへき松のよはひをきみか又のひてさかえんすゑそたのしき

同　本居有々

千代とのみちきるとしなみのまつすれはよはひそのへるためしなりけん

因州　敬之

千代かけて植しときはの松のみか栄ゆけとのねかひなるらむ

さらでさへ千とせ經ぬる松とまたよはひのぶてふ松はいく世經む

同　鷲見安歆

清人　江芸閣

薩摩分得延齢種。長沐恩膏欲化龍。疑是泰山五株秀。青虬紫甲壽無窮。

徳山　小川貞

久知幽客意。雅尚遠相尋。已許琴尊契。堪酬山水音。庭松何好爵。園石総佳吟。肴伴延齢祝。須論不昧心。

筑前　二川相近

太平君子本風流。曾植稱松覆驛樓。來往停車清蔭下。坐令天籟奏千秋

京師　荷田信美

移しうゑし松は千とせを經のためしよはひ延てふ名をしたつハて

尾州　松野道忠

名にしおふみつるよはひも千代をもち經む松さかえん宿の松かえ

京師　服部敏夏

ひさかたは千年の松さち經て老さて花さく春も君ハとては

因幡　佐治長正

うつし植し君の恵のいろそひて幾千代やまつのみどりさ君

大阪　相場長昭

あまつの千代のためしと。うみ於けるもとつみくにの。空かそふ
大海原の。ゆきまよふ人國の外にも。世に廣まる植ゑ置きし。はつ
えなる庭松の木は。そやまとのけふ見えの。千年の松をはえし。
美しつゝ根こし植えして。年古き年をへ更に常盤なる。衣にも
酔ひ語りに。世々のこくちしは。時をうゝしえ人まゝ。
常盤なるうけもあへよと。千名をば数をかふと常盤にて本ま
こ世あれと。きゝ人の見る便まゝて世れや世をみしぬ。
うみやまは座るてゆきとり。とのうをあらしなひく。やの
はうたまのしきしそれの庭松。

反歌

天の代を千ぢのなかくへんとや。ちとせ。みにかわるてぞいて常盤に
千代のみくまゝこやゝさかへゆくをかしきこそてもちの村

萩　草場謙

靑分公子澤。貞表主人榮。孰識秦封後。有若大夫名。

柳川　牧園豬

我邦西伯幼髫時。手植雛松成盖枝。居士眞情欽愛篤。頌歌騈美召南詩。

因州　小林茂雄

ちとせの。つまの松のはなみるくあまをかんなはとちよ毎八ちよと繁

筑前　青柳種广呂

はつ枝さし若葉の松の千代かけてゆくやとゝまらん君

出雲　千家俊信

時雨つる雲ゐをもれて浦ちかく高みまつそ千とせまつかも

萩　静間美積

植うへて名にしあふ本なれは松かえはくもらふしてもかちやかたらん

同　布施御牆

うゑ込所はかはると松の緑ともおもひふかめてうつりはてす

同　仲子通好

名にたかき常盤乃松のうつりきてひとしほふかき千代のかけのし

同　張岩丸

よはひをもおもふてふ君か世にあされは千とせをこえて千代やへぬらん

同　日野政孝

やちよまて見るまゝけふの友とそや植うへん松もみとりのふかし

小倉　後藤素

垣下孤松栖令威。榮名遐迹自翩飛。延齡賜額恩何渥。長澤移株瑞不違。爲是薩侯黍種植。由來偃盖帶光輝。主人無限封培意。幾歲看君及百圍。

越中　桐澤尚香

やかよやとしるてし見るも見ちかれて世々にはかゝるまつはのぞみ

遠江　小栗廣伴

立そめし松乃よはひをうらやみて君か代まておほかる天八百のさく

石見 釋信徴

かきりあるよはひを祝へはかさ紫より契る松乃天乃友なる

岩國 廣瀬喜運

ときは成枝にかはらぬ松かえハいくよろ契りのよはひなるらん

遠江 有賀豊秋

かきりなく君にはちよへんかはの松かえしやいつとこのふ世まてまて

同 高林方朗

君を祝ふる松かけしめてちとせ君ハいく千とせとも世をそへるらん

防府 弘正方

西ひらしゆきゆふ縁ある松らしちとせのよはひをのこそゆけ

佐山 鈴木春信

かさしける松のよはひは八百日ゆく浜の真砂にいよいよ増る

廣島 富田能孝

紅葉も色はあらそふ千とせハつきはの松そうれしさ

岩國 森脇方純

その枝はさかゆくのちの姫つきて君もひろまわる松のひかりや

石見 釋凌空

ふる人はまたひのこふ松なれハいつまてもちとせのつきをあふくらや

平武義

あし引の山高み尾の池の堤に根ふかくおふる小松哉
うつしうゑてみ殿のうへにつくれる松とはいはまほしき上面
みおもて庭中に植おかれしをみるもの年ふる
ことになしつてたのしみて神さひゆくそ夏の日はうけを涼
しく冬の雪をもよ秋の風の吹れるを明くるの
あしたつそまに声は葉はちりて寿き雪とふるをきせむ
そのかつふむかひそててとも紫はひくさは松の色の
よろひとみえんその色のしる

反歌

色かへぬ松さひかれてふぬしのちよろつよのかきりなく

中津 松川北渚

田家庭上一株松。凌得氷霜轉欝葱。不願更供棟梁用。延齢長伴主人翁。曾見君家松樹青。重〻偃蓋蔭前庭。何時再訪君家去。滿屋松聲連榻聽。

近江 釋大聞

高軒嘉樹在。貞幹得佳名。葉密蟾光碎。枝垂龍影明。淡花飛玉屑。幽籟亂琴聲。試借銀床臥。翠陰夢也清。

讃岐 釋意戒

偃蓋孤案色。中庭滿目青。時聞一聲鶴。應是壽君齢。

土佐 平道

夜には田にさむ鶴も真関にわたる亀も千萬代とうたひ
のふてふ兆をもいはまほしみそめ者かくりもあり天雲に
さひまうけたて胡しるしなしみきもの馬贊ありけるもの
周防なるよし記乃はりさ大虎の上田なるせうおきなひる宿乃
みさりてたまわりし齋庭とさため言巻八中しられる隼人の
さつまのくに徙来しまて神のここの岸にさやね松やうへて
なまつりしきみわぬまに庭中に水枝さしおひ手ね松をとつや
常磐木乃空緑の委すつ乃おもに松を来ふかくりもをうを
かはまさしひのいけりをみるひとのみくもしとかさらひ
うつ緑さためてよりひのふてふ

反歌

うちはえの千代のよはひをむすびたつ常磐人ならし ふるきの松
萩 小田斯宣

ふりし枝も千代さ浜のさつえよよをひとつ人やそのねもしも
江戸 南山國孝

上文

このうつのつるかもしの久わかなのうゑ人のしるしなれ松の葉のとこ
尾道 琴女

あらたにふるきみよのはへにて枝葉さかゆく松そこのしな
仝 ?女

くしきふみよりたえて君さかゆきをさすむたさく庭の松かえ

仝　土屋正臣

千代の名をよそにもれぬと人ならは松も万代もかはらん

萩　釋忍信

曾栽數寸松。今見棟梁容。千歳堅心操。三冬翠色濃。

尾道　土屋正文

まちえられて君かためには松のそのひとつの千代を猶もちきるね哉

仝　冨吉義直

千代のためしに君をまちしてしるしきみか千とせをひとへにてきく

豊後　臨霞

鳥のねもきこゆるはるにふくや胡のこゑ

防府　木村豊平

よにはひとり君をあつまにまちつけてもろこしこえ行二度の松くらん

薩广　鬚瀧

ましかきもまちてみよ松ふく千歳の君

美濃　盧況坊

まちえられてなほさく菊あふれて中りなりし

薩广　橋口古愚

こゝろをつくしまちし君か千とせ一本の松のちよろつよもちかふ

和泉　釋陳阿

こゝろしてまちし君かめてにの千とせまさるめでたく千代の松のちとせ

萩 藤間田盛稔

大かたの雪山ならぬこのみや八千年君のさかへをまつの世

仝 杉盛倫

うきよりなくらそひの千とせ松あをさゑゝゑん人のも代や今よし

京師 中村忠次

久かたの天のさかみ志ろきの神のまつりし松や千世まてん

江戸 永機

色くれハ志らす千代ふむ中川なる

阿波 七條安尚

長はちあくつきたかし雲をなし松そち代の友にハありけれ

陸奥 摘山

松樹移長澤。歴年老幹蟠。名縦君子稱。貴是太夫官。風韻高穐夜。龍唫貫歳寒。杒團漲紫蓋。清爽豈能干。

長府 菊舎

ちはやふるかみのしらまつ中の松よ千代

防府 今津宜之

不昧居常靜。庭前松樹清。蓋含公子澤。枝帶太夫榮。風動琴聲起。雲晴龍影横。流膏今若箇。行看佐長生。

長府 内藤正奥

二葉よりみとりのかけ深みとりに千代をちきるやそのうへ

志あまつみどりそふ松のちの千代のよはひハ見そなはさん

同　内藤静女

ひきうゑし見るよはひをへつゝふるまゝハふるき葉みどり常盤の松

大阪　平井諸成

見るやとの松こそやとし行をふるよしありとよはひかずかぞへかれ

大阪　呉橋春名

ひきうゑし見るはうゑてそ松の枝もいや年たかく栄ゆのなほし

飛彈　田中大秀

うま人み松こしてうゑし庭の松名をおふせまちうま人にて

大坂　森熊夫

ひきうゑし昔ハ千代のためとそ松のうゑをかふ世にも生しの松

同　森てい女

ときはなる世を松ひいて千とせまて見るよはひを行する松の

大坂　権律師窓明

周防なる吉敷の郡大道むらみそのほとり上田めしの舎とのちに

江戸　村田春門

ある延齢松よりふしやうかのほとりをかまくらむかしもむかしとそ栄
つもれる千とせ梢さしかひちあしひきの山のやまとの人ようつし家に
ぬへくいもわれこ玉藤のあんかくるこハ集人のさ門子のはしら見。王
うつきまつりの飯のまさいはひらかりしよしけりつゝあくしみつかの

いにしへゆかりありてそのかみ人に申かはしたるちなみきこえけるに。菅原
くちぬきてつくる玉かつら長浜とぞ。ことふより御歌に詠ありて。そ
のかみうちひもしみそ。堤のおひたる松のまに二葉ありと。手つからうゑおきな
ひて。見させ給へるなりけり。千代をかさねしを上田ぬしのあらたしくさ
な遊園中の芳樹。かつきこの果あひ来みて。かさね給ふ所なよ
き人のうへしよろこびよりしとおもほしくらえるもしも志らく
志る枝も葉にも志るして。はしの上なる名をしもたま
りしときゝ。あし垣のまちつきたるあらたましつい。よしとかくん
てましものをとおもふまだくらもえぬそうひかく
人つてきゝくわの世子のひぬへしたる長保千年きこのせるとも

黒田甲斐守長房朝臣

青々松樹蔭侯栽
謖々清風入席来
不睬主人真好事
明窓弾琴勧瓊杯

庚午仲冬

桂樓

松平和泉守乗寛朝臣

松植し命見るたし月と雪　山遊

此の集ハ。はやく坂堂山翁かりひらき出しぬ。事とへぬほとは多くまうし出しゝハ。おのおの千とせをさへと
つきいるを。おほしくハ板に忘しきを。世にもつたへられ。
そはらん人のあるまて。すゑ巻ハしるしたる事。出きを
ちゝも後もいつまでにかきつらぬ。すぐれてしうく推
そうしふへき。

隠らり松のしつえまうるほひて下葉さへや千代とへぬらん　光逸

きく女

うゑまちる君もちとせハゆつるてもあかぬ事ある けふ娘ふ

雲井由く鶴乃やちよとうたふなる玉しきの紀庭乃まつのうへ　雪女

庭もせにいろにうつしあるちよりてちよの後まで葉をはのまん　さよ女

かくやとしるさきその玉松はちよのむかしまでおもしろきまにまに　光美

薩摩乃　殿村茂光ぬしのもとよりつかはしの紀さし紀よ。かく
きさまくて。そのしめくはえ半まつりぬすすそこの長澤
の池の得とやふに御車ちらめて。かくその小松をひきさけそへ
なひて。上田氏のやとりそのまつしを集く。庭のうへよう急きをひ
きまかるの。年をふるすふいておもひ紀ある本をあまた東里。
今井新ちの枝さしおかひ葉しろて本ふのくきそくゑむと
めやなんやこのて寿まもちりるが。かくて御世つの齢まひし浅き。
ゆりひぶとよりあしびえまとせなひつ。猿乃おかん家をちよの
みどりふ染させまふて年りさるらて。つひよ延齢といふ名をさん
なんとしるひろ。そのらし世よむろくゆえまれハ。保方村園乃

このひさかくやんことなき殿の。御まへにつかうまつる思ひせ身なりける
めくらしつゝ。おほくのとしつもる歌のこゝろ。松の葉ちりうせずおほく
とゝめるとぞ。いつしかことぶきをいはふにふしこそ千代や八千代と
おのづからそなはりて。松のみどりひとゝともにくちせぬ枝葉はしげりあ
ひまさるなるに。そもそも殿のさかえをあふぎてまつりせ給ふ
道なり。殿のさかえ山をもつてつゞくことぶきひめしん。大かたの人々
は。さるはいふも許すべし。梅よりさかゆくこそ末のよはふべきよ。
さはあれて。常盤乃はなのえだしもよろこびあひたいりんは。梅さゆ
いふごとくなるべしとかしこけれどおしなべて考ふるに。殿のよはひ
ことぶきやとゆへ。鎌倉殿頼朝乃ますら君の御子ならて放つて

津の国住の江の松かえのめでたうゆかれさせ給へる。その津の
さとまでもえらびしめてとらせたまふ。年は七百とせまちらし。代は
ことつぎに及ぶ。ことそるうなる年しへのとしを経とぶ。渚の松の
下枝の思ひもあひて。ふりう思させ給へるしるべし。さては其の
日にも引つねなりて。都にさしあひてんや。二葉とゆふらうのおほろへ
よはひはおそしましなりかくて。かくさきをまへてるをあへる津のから
さんみほとゝおもひなむ。むかし國をしめをへてまつる茶ね松さし
も。まづふるのこゝに春らへとるある。津の国と云千
里を庵てしをちあれは住の江の水いつその長洲の浦か
とふ庵こ。こは行きうに物と得をかくちて都甲しといひなる

人もとめまほしくそかくなされ。松のいろおなしなれは。桐生
みやこはあなうらおもおもしめさんと。をしつんてとなそこの
あけつくいそ。　殿の玉県にうつえ本にいか。あすれうふつなあまふ
へくそおほゆる。されは上田氏のやとの松は。さしに月と成とし
常とみ若くしんそ。めて愛さるの本まとしれ。あのきちやく
となと。かくおのひとまなし中栄え。

下陰のおち葉もよすかなく千年にかはらぬ松のひともと。
とふんよめるなる。さるいつくあきも言の葉まて。こゝの中に年
まつふるくはあし拝といそしろ　殿の待ん心をくへしまるに似
されは。尾ちうしにきてんはかくし。けてあすいかそつるなく
あるを。松陰はやしめくにうえと守るにうしいきうなもいそれ。
歌のしうにきそくて世々の後とおかんなんはとうらきさる
むしろひはあるへうしくそそ。

天保十とせ[illegible]弥生

田中芳樹

天保十年己亥春三月

周防臺道　不昧居藏板